



福岡県うきは市



古墳でフルーツ狩り！屋形古墳群整備＆賑わい創出プロジェクト

概要

今後5年間の総事業費 79,470千円

九州北部は、6世紀後半頃の装飾古墳が密集し、73基の国指定装飾古墳うち1割の7基がうきは市内に集中しています。開発によって姿を消した古墳もありますが、地元の努力によって大事に保存されてきた古墳が現在も市内に多く残っています。

昭和になり、古墳がある丘陵地帯ではフルーツ栽培が始められ、今ではぶどうや柿など1年中収穫できる有数のフルーツ地帯となっています。

うきは市では埋もれたままとなっていた古墳を地域資源として再整備し、フルーツ狩りもできる古墳公園拠点として新たな魅力を備えた空間とするため、屋形古墳群を整備します。

プロジェクト 屋形古墳群（珍敷塚、原、鳥船塚、古畑の4古墳）の整備

ポイント

うきは市は近年、古くて新しい癒しのまちとして人気が出ています。丘陵地帯周辺には古墳のほか、インスタ映えする「白壁のまちなみ」や「浮羽稻荷神社」、「身延のしだれ桜」、「フルーツ狩り」、「スイーツ巡り」など多くの人気スポットがあります。企業や個人がうきはのファンになっていただく関係人口づくり事業などとともに古墳群整備を応援していただき、官民連携を進めて例えばうきは市を企業研修やリフレッシュの場として活用していただけます。